

2022/7/23

(うと Q 世話し 期待インフレ率) 書庫版



「期待インフレ率」という言葉を聞いて強烈な違和感を覚える人が多いのではないのでしょうか。

「何それ!! モノの値段が上がる事を期待するなんて、頭おかしいんじゃないの?」
なぜこのような反応が起きるかと申しますと給料が上がらない中でモノの値段が上がれば当然使えるお金「可処分所得」が減り生活が苦しくなると瞬時に想像するからでしょう。是が高度成長期であれば案外すんなりと受け入れられる言葉も 30 年近くに渡ってデフレスパイラル (いくら値段を下げて物も売れないし給料も増えないどころか減るばかり) を経験した後、又は経験中の時代の我が国国民諸氏には到底受け入れられそうもない言葉でしょう。イヤ、何を言っているのか瞬時には理解できない言葉でしょう。

そこで本日は経済学用語説明ではなく我々国民ベースではこういう風に捉えると理解し易いのではなからうか? という「期待インフレ率」の解釈の仕方のお話を致します。

まずインフレとは単純に「モノの値段が上がる事」とします。

「モノの値段」は直材費+工数 (人件費) + 諸経費+利益=売上 (販売価格) とします。このうち直材費 (企業物価=仕入価格) と諸経費 (水道光熱費等) が上がらずに人件費 (我々の給料) と利益 (会社の儲け。是を原資に給料が上げられます) だけが上がるのが「いいインフレ」です。要するに可処分所得が増え生活が潤うインフレです。

「期待インフレ率」の「期待」とはこの事を指しているのだと理解すると分り易い様な気がします。

(厳密には企業物価 (仕入価格) の中には業者さんの人件費も含まれているのですが、上記の話は分り易くする為に敢えてその部分は端折っております)

一方「悪いインフレ」とは我々の給料や会社の利益が上がらずに直材費に相当する部分だけが上がる現象です。

直材費が上がるのは需要と供給の関係から申せば供給量が需要量より少ない事が大きな一因です。

今回で申せばコロナ禍で収穫する人間がいないとか港で船積する人がいないとか、或いは戦争で物流網がズタズタになってしまったとか、異常気象で収穫量が激減したとか等などによってモノが手に入りにくくなるような場合です。

一方我が国に限らず世界中の企業はその存続をかけて賃上げや採用を抑制したり酷い場合には解雇したりしております。

この給料が上がらずに（結果景気後退に陥ります）モノの値段だけ上がる（悪いインフレ）が同時進行する状態をスタグフレーション（＝景気後退時のインフレ同時進行）と言います。

是は我々が 30 年余に渡って経験してきたデフレスパイラル（値段を下げてても物が売れず給料がどんどん減っていく現象）よりも給料が減るのに物価が上がる分だけ更に悪い状態です。

我々が「期待インフレ率」に抱く強烈な違和感はこの「勘弁してほしいインフレ（スタグフレーション）」を直感しての事ではないでしょうか。

注)

本稿は論ではなく一解釈法です。